

第5章 南阿蘇村における文化財の保存と活用の基本理念・方向性

本村の総合計画の施策では「ともに学び育て合う未来の人づくり」を掲げており、村の目指すべき姿として、「文化財が適切に保存されること」、「地域の文化財に興味を持つ人が増えること」、「文化財が地域資源として活用されること」を目標としています。

また、本村の景観計画をはじめとする関連計画では、文化財の観光資源としての活用について記載があります。しかし、現状では南阿蘇村において、文化財の観光的な利用はほとんど行われていません。これは村民に対して文化財の周知啓発が不足していることや、本村の文化財の性質上、小規模な文化財が集落各所に点在しており周遊しにくいことが原因と考えられます。そのため、本村の特性に合わせた文化財の啓発及びそれら資源を活用した巡検やフットパスなど教育や観光での利用が文化財の保存・活用につながると考えられます。

本村では第3章で述べた南阿蘇村の歴史文化の特性を生かし、文化財の保存と活用を進めるため、次のとおり基本理念を定めます。

基本理念

ただのいなかじゃーなかよ
～守り、活かし、共にかかわる“みなみあそ”～

村内にある様々な文化財を知ることで、本村特有の歴史文化、産業等を再発見し、ただのいなかではないことを知ってもらうという思いを込め、本村のPRでよく利用されるフレーズである「ただのいなかじゃーなかよ」という言葉を基本理念の冒頭に採用しました。

この理念を達成するために副題の項目毎に方向性を示す文言を添えて記載しました。

【方向性①】 守り、つなげる

南阿蘇村の主要な産業である農業に伴う水路や草原などは、村を象徴する景観を形成する大切な要素です。また、現在も地域ごとに続けられている祭りなど、暮らしに根付いた風俗慣習、民俗芸能が地元住民によって守り続けられています。これらの景観や地域の文化財を調査することにより文化財の価値づけを行い、地域や行政で連携して守り、未来へ確実に繋げます。

【方向性②】 活かし、ひろげる

南阿蘇村には、阿蘇神話をはじめ、様々な神話や民話、各地に残る祠や寺社といった文化財や、かつての生業や生活を伝える道具など多様な民俗資料が残されています。これらを村内外の多くの方に見て、知って感じてもらう機会などを作ることにより、更に理解を深めることや、実際に活用することで、現在を捉え将来を展望し、文化財の価値を広げていきます。

【方向性③】共に、かかわる

文化財を守り、また活用していくためには、行政だけでなく多くの人々がそれぞれの立場で文化財と関わっていく必要があります。村民や関連団体、国・県等と連携し、文化財に関わる人や支える人を増やします。

文化財の保存と活用の基本理念・方向性



図 5-1 南阿蘇村文化財保存活用地域計画 基本理念・方向性概念図